

科目名	コンピュータシステム I B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	北島仁宇		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験、ITパスポート試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、情報の基礎理論やネットワーク及びセキュリティに関する知識を学ぶ。 基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ハードウェアソフトウェア分野の用語について説明できる	
	○					セキュリティ分野の用語について説明できる	
	○	○				表や文章に書かれている情報を元に計算式を導き出すことができる	
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキストI【ベーステクノロジー編】(TAC株式会社) 基本情報処理技術者 試験対策テキストII【システムの利用と開発編】(TAC株式会社) 基本情報技術者午前問題集(株式会社インフォテックサーブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~3	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	4	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	4~6	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	7	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	8~10	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	11	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	12~14	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	15	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	16~18	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	19	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	21~23	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	24	総復習					
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	コンピュータシステムⅡB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	小淵洋子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジー系の基礎となるデータベースおよびシステム開発分野に関する知識を学ぶ。 各分野の技術や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して習熟を図る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				データモデルや正規化の知識を元にデータベース設計ができる	
	○	○				要求されるデータの選択や表の定義を行うSQL文を記述できる	
	○	○				プログラム設計書やテスト設計書を読み、ソフトウェア設計要件と照合できる	
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】(TAC株式会社) 基本情報技術者午後問題集(麻生情報ビジネス専門学校)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	DB-正規化、E-R図、グループ化、さまざまな条件検索					
	2						
	3	DB-ビュー、外部結合					
	4						
	5	DB-表作成と制約、副問合せ					
	6						
	7	DB-更新、高度なSQL文、トランザクション制御				授業で配布する演習問題を解いておくこと(1時間)	
	8						
	9	システム開発-突き合わせ処理					
	10						
	11	システム開発-グループ集計					
	12						
	13	システム開発-UML					
	14						
	15	模擬試験				模擬試験前の復習をすること(1時間)、模擬試験で正解できなかった箇所をまとめること(1時間)	
	16						
	17	システム開発-テスト、決定表					
	18						
	19	システム開発-ファイル処理					
	20						
	21	模擬試験				模擬試験前の復習をすること(1時間)、模擬試験で正解できなかった箇所をまとめること(1時間)	
	22						
	23	弱点分野復習					
24							
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。(3)授業中にグループワークや演習を指示する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	コンピュータシステムⅢB						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	72時間	担当者	村上香代		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、アルゴリズム分野及びプログラム開発(表計算)分野に関する知識を学ぶ。に関する知識を学ぶ。初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。プログラミングにつながるトレースカも身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				表計算分野で出題される関数の仕様を理解し、活用することができる	
	○	○				表計算分野においてマクロによるセルの参照を理解し、トレースすることができる	
	○	○				基本的なアルゴリズムを理解し、仕組みを説明することができる	
	○	○				擬似言語の表記方法を理解し、トレースすることができる	
テキスト・教材 参考図書	情報処理試験の表計算問題がちゃんと解ける本(翔泳社) 基本情報技術者試験のアルゴリズム問題がちゃんと解ける本(翔泳社) 基本情報技術者午後問題集(麻生情報ビジネス専門学校)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	仕様、関数確認 21年春					
	2	表計算21年秋～22年秋					
	3	表計算23年特別～23年秋					
	4	表計算24年春～25年春					
	5	表計算25年秋～26年秋					
	6	表計算27年春～29年春					
	7	アルゴリズム(ソート)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと(1時間)	
	8	アルゴリズム(文字列操作)					
	9	アルゴリズム(文字列操作)				模擬試験で正解できなかった箇所をまとめてくること(1時間)	
	10	アルゴリズム(経路・距離)					
	11	アルゴリズム(リスト、復習)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと(1時間)	
	12	アルゴリズム(その他)					
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。(3)授業中にグループワークや演習を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ネットワーク I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	54時間	担当者	北島仁宇		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	現在、標準的に使われているTCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学ぶ。 またシミュレーションソフトを使用して、データの転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる	
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる	
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる	
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	ゼロからわかるネットワーク超入門(技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	・インターネット通信、pingコマンドの使い方 ・IPアドレス					
	4-6	・IPアドレス				小テストの準備として、IPアドレスの計算練習を行うこと	
	7-9	・ルーティング					
	10-12	・パケットによるデータ分割 ・TCPとUDP					
	13-15	・ICMPとping ・プロトコル					
	16-18	・プロトコル				小テストの準備として、プロトコルの特徴などについて復習を行うこと	
	19-21	・OSI基本参照モデル					
	22-24	・ネットワークインタフェース層の役割				総復習に向けて、不明点を質問できるようにまとめておくこと	
	25-27	・総復習					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				50%
	小テスト	◎	◎				25%
	課題・レポート				○		25%
履修上の注意							

科目名	制御ソフト I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	元田真史		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	組込みシステムで使用される制御ソフトウェア(制御ソフト)について学習する。 実機(レゴマインドストームEV3)を動かすプログラムを作成することで、制御ソフトの概要・開発手法を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					組込みシステムの概要および活用場面について説明できる	
		○		○		組込みシステム開発ツールを使用し、制御プログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 『改定新版 絵で見る 組込みシステム入門』電波新聞社 『ロボットと情報技術 実習-教育版EV3ソフトウェア』株式会社アフレル 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	組込みシステムの世界				身の回りの組込みシステムを調べる(1時間)	
	2	制御ソフト開発①【EV3でのプログラミングとは】				各種センサが使用されている組込みシステムを調べる(1時間)	
	3	組込みシステムの仕組み①【マイコン】					
	4	制御ソフト開発②【カラーセンサを使ったライトレース】					
	5	組込みシステムの仕組み②【入出力フロー】					
	6	制御ソフト開発③【タッチセンサを使ったスタート&ストップ】					
	7	ハードウェア技術①【基本・周辺機能】					
	8	制御ソフト開発④【ソナーセンサを使った衝突回避】					
	9	ハードウェア技術②【入出力】					
	10-11	制御ソフト開発⑤【ジャイロセンサを使った姿勢制御】					
	12	ハードウェア技術③【LSI】					
	13-14	制御ソフト開発⑥【応用課題1】					
	15-16	ソフトウェア技術【リアルタイムOS】				WindowsOSとリアルタイムOSの違いを調べる(1時間)	
17-18	制御ソフト開発⑦【応用課題2】						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラム開発課題を課す。(3)授業の中で課題を指示する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	プログラム開発演習		◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	コンピュータオペレーション演習							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	北島仁宇			
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	企業内サーバとして構築されるLinuxについて、基本的な操作方法、役割などを学ぶ。また演習を通してLinuxの基本操作、さまざまな管理機能について理解する。							
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				Linuxの概念や役割を説明できる		
		○				Linuxの基本コマンド操作、viエディタによるファイル編集を行うことができる		
		○				Linuxサーバにてユーザ管理、ネットワーク管理を行うことができる		
		○				Linuxサーバにおけるプロセス管理、ファイル管理を行うことができる		
テキスト・教材 参考図書	Linux標準教科書(LPI-Japan)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1・2	Linuxとは(UNIX, Linuxの特徴・ディストリビューション)・認定試験について Linuxのインストール						
	3・4	基本コマンド1(ディレクトリ/ファイル操作・コマンドパス) 正規表現とパイプ(標準出力・標準エラー出力・grep)						
	5・6	基本的コマンド2(ファイル属性・テキストファイル操作) viエディタの使い方(基本操作)						
	7・8	管理者の仕事(ユーザアカウント登録/削除・グループ登録・パスワード管理)						
	9・10	ユーザ権限とアクセス権(所有者と所有グループ)						
	11・12	ネットワークの設定と管理(IPアドレス)						
	13・14	ネットワークの設定と管理(簡単なセキュリティの設定)						
	15・16	ファイル管理(ファイルシステム)						
	17・18	ファイル管理(マウント)						
	19							
	20							
	21							
	22							
23								
24								
評価方法			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		○	◎				50%
	課題・レポート			◎		○		40%
	受講状況					◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。							

科目名	Webプログラミング演習 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	染矢裕美子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	多くのWebサイトが採用している4つのレイアウト手法を学び、HTML&CSSの知識とWebデザインの基礎を身に付ける。また、JavaScriptのライブラリであるjQueryの基本を理解しMonacaを使ってモバイルアプリ開発ができるようになる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Webサイトを作成する上で必要なHTMLのタグを理解し、使えるようになる	
	○	○				JavaScriptの制御構造、配列、関数を理解し、使えるようになる	
	○	○				JavaScriptのライブラリであるjQueryの書き方を理解し、内容が理解できる	
		○				Monacaを使ったモバイルアプリ開発ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	教材①:『すらすら読めるJavaScriptふりがなプログラミング』インプレス出版 教材②:『HTML&CSSとWebデザインが1冊でちゃんと身につく本』技術評論社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	HTML&CSS:教材②Chapter6(シングルカラムページを作成する)			前期で学習したHTML&CSSを復習しておく(1時間)		
	2						
	3	HTML&CSS:教材②Chapter7(2カラムページを作成する)					
	4						
	5	HTML&CSS:教材②Chapter8(グリッドレイアウトページの制作と動画の埋め込み)					
	6						
	7	HTML&CSS:教材②Chapter9(問い合わせページを制作する)					
	8						
	9	HTML&CSS:教材②Chapter10(マルチデバイス対応ページを制作する)					
	10						
	11	JavaScript:教材①復習(制御構造、配列、関数)			前期で学習したJavaScriptの制御構造、配列を復習しておく(1時間)		
	12	JavaScript:JavaScriptのライブラリであるjQueryの基本					
13-18	Monacaを使った制作演習			制作するサイト案を考える			
評価方法	(1)授業の中で課題を指示する。(2)確認テストを数回実施する。(3)作品制作を実施する。						
	以上を下記の観点・割合で評価する。						
	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講状況				◎		10%
	確認テスト	◎					10%
	課題提出	○	◎		◎		30%
作品制作		◎		◎		50%	
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	プログラミング演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	54時間	担当者	小淵洋子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	Javaの開発環境とプログラミングの基礎文法を学んだ後、オブジェクト指向の基本的概念であるクラス、メソッド、カプセル化、継承、ポリモーフィズムを中心に学習を進める。 各テーマの理解確認として複数の難易度別課題に取り組むことで、プログラミング力を養う。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Javaの開発環境を設定できる	
	○	○				クラスや継承等のオブジェクト指向に基づくJavaプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるJava入門(株式会社インプレス)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Java環境設定、第1～2章 Javaプログラムの書き方、式と演算子、型変換					
	2						
	3	第3章 条件分岐と繰り返し、分岐構文と繰り返し構文のバリエーション					
	4						
	5	第4章 配列の書き方、多次元配列				授業で指示した課題を期限までに提出すること(1時間)	
	6						
	7	第5章 メソッドの引数、mainメソッドの引数					
	8						
	9	第5章 メソッドの戻り値、メソッドのオーバーロード、コマンドライン引数					
	10						
	11	第6章 複数クラスを用いた開発				授業で指示した課題を期限までに提出すること(1時間)	
	12						
	13	確認テスト(実技)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	14						
15	第7章 オブジェクト指向の定義と機能						
16	第8章 インスタンスとクラス						
17							
18	第9章 クラス型と参照						
19							
20	第10章 継承				授業で指示した課題を期限までに提出すること(1時間)		
21							
22	第11章 コンストラクタ						
23							
24	第12章 多態性						
25							
26	総復習				授業で指示した課題を期限までに提出すること(1時間)		
27	確認テスト(筆記)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)		
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(実技、筆記)を2回実施する。 (3)授業中にテーマ毎の練習問題を課題として指示し、取り組み状況や完成度を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト	◎	◎	◎	○		20%
	課題演習		◎	◎	○		20%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	一般教養 I B						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	畠添正和		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	就職筆記試験の要素である英語及び社会に関して基本知識を習得する。毎回多くの練習問題を解くことで、様々な問題に対応できる力をつける。また、前期に実施した国語及び数学の復習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				英語の基本5文型で書かれた短文の和訳ができる	
	○					就職試験頻出の漢字、同音異義語、四字熟語の読み書きができる	
	○	○				長文や図表を用いた数学問題で正しい式を考えることができる	
テキスト・教材 参考図書	就職筆記試験対策問題集(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	英語:短文和訳(1. 前置詞句) 英語:短文和訳(2. To不定詞)					
	2	英語:短文和訳(3. Ing形 4. 過去分詞) 英語:短文和訳(5. 第5文型)					
	3	英語:短文和訳(6. Itを用いた文) 英語:短文和訳(7. 関係詞)			これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと(1時間)		
	4	小テスト(英語(短文和訳))			授業内容に係るテストを実施するので、復讐しておくこと(1時間)		
	5	小テストのフォローアップ 英語:1. 基本単語、2. 時事英語 国語・数学の復習					
	6	英語:3. 熟語、4. 発音、5. 会話表現 国語・数学の復習					
	7	英語:6. 文法、7. 英文和訳、8. 和文英訳 国語・数学の復習					
	8	英語:長文読解 国語・数学の復習					
	9	総復習			これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと(1時間)		
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを1回実施する (3)授業の中で課題を指示する以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	ゼミナール I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	姫野マリ・小淵洋子・北島仁宇・村上香代 元田真史・染矢裕美子・奥野広成・松浦仁志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	学習を進めるうえで基盤となる力を養い、社会人基礎能力を身につける。 PDCAサイクルを意識した取り組みを個人やチーム、クラス単位でのワークとして実施する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		PDCAサイクルを用いた目標および行動管理ができ、計画立案、実行、振り返りが実践できる	
	○			○		グループワークを通して、チームへの主体的な取り組みと他者への働きかけができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会人基礎力、PDCAサイクルを学ぶ			社会人基礎力、PDCAについて調べてくること		
	2	PDCA実践学習① Plan 学習目標設定 学習計画立案			学習計画をまとめレポートを作成すること		
	3	PDCA実践学習② Do 計画に沿った学習(前半)					
	4	PDCA実践学習③ Do 計画に沿った学習(後半)					
	5	PDCA実践学習④ Check 学習効果の確認					
	6	PDCA実践学習⑤ Action 振り返り			振り返りをまとめレポートを作成すること		
	7	学習基礎力向上① …読解力が向上しているかチェックする					
	8	個人学習計画 …プログラミング技術イベントに向けて					
	9	チームイベント準備計画① …スポーツ大会イベントに向けて			自分の意見をまとめてくること		
	10	チームイベント準備計画① …スポーツ大会イベントに向けて			自分の意見をまとめてくること		
	11	学習基礎力向上② …一般教養力が向上しているかチェックする					
	12	学習基礎力向上③ …読解力が向上しているかチェックする					
	13	学習基礎力向上④ …IT基礎力が向上しているかチェックする					
	14	クラスイベント準備計画 …学園祭クラス企画 計画・準備			自分の意見をまとめてくること		
15	1年間の振り返り			振り返りをまとめレポートを作成すること			
評価方法	(1)レポート(数回程度)の提出状況 (2)授業中に指示した課題の内容 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題レポート		○		○		50%
	受講状況				○		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村上香代		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科 1年						
授業概要	就職採用試験に提出する履歴書が作成できる。 求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。 就職活動の申し込みができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する(30分)	
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する(30分)	
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する(30分)	
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する(30分)	
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する(30分)	
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる(1時間)	
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる(1時間)	
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる(1時間)	
	11	求職票受付面接練習① 入退室の所作					
	12	求職票受付面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	求職票受付面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	求職票受付面接練習振り返り					
15	企業説明会・入社試験時のマナー						
評価方法	(1)志望職種に対する履歴書を作成する。(2)学内で面接試験を実施する。(3)授業への取り組み状況。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	求職票受付面接	○	◎	◎	◎		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスソフトウェア演習 I B					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	河野明子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年					
授業概要	Wordを使用して、ビジネス文書や表現力をアップする機能を使った文書(チラシ等)が作成できる。 PowerPointを使用して、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○	○			目標	
	○	○			Wordを使って、30分以内でビジネス文書(社外文書)を作成できる	
					PowerPointを使って、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019(FOM出版)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	第1章 Wordの基礎知識/第2章 文書の新規作成(Word)				
	2	第3章 グラフィック機能の利用			テキストの第1章～第2章を復習しておくこと(1時間)	
	3	第4章 表の作成(Word)/第13章 アプリ間でデータの共有(WordとExcel)				
	4	Word 練習問題			テキストの第1章～第4章を復習しておくこと(1時間)	
	5	実技試験(Word)/第10章 PowerPointの基礎知識			4回の練習問題を復習しておくこと(1時間)	
	6	第11.12章 プレゼンテーションの新規作成 スライドショーの実行				
	7	第13章 アプリ間でデータの共有(WordとPowerPoint)				
	8	PowerPoint 練習問題(総復習)、プレゼンテーション作成 Wordでストーリーシート作成			テーマを考えておくこと(0.5時間)	
	9	PowerPointでプレゼンテーションの資料作成				
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)数回の課題や宿題を課す。(3)課題に対するプレゼンテーションを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	実技試験			◎		
	課題・プレゼンテーション			◎		
	宿題			◎	○	
	受講状況				◎	
履修上の注意	プレゼンテーションには時間の制約があるのでしっかり守って作業をすること。 再試験は実施しない。					